

6号機非常用ディーゼル発電機（A）検証試験時の油漏れについて

- これまでの事案発生状況を踏まえ、軸の接触防止、油漏れ防止などの各種対策を機器メーカーと協働により対応
- 対策の有効性や課題点を確認するため、ディーゼル発電機を動かし、7月22日に検証試験を実施したところ、開始後約50分で油飛散ガードの外への油漏れを確認し、運転を停止
- 詳細原因は現在確認中なるも、これまでと同様にカバーの合わせ面からの油漏れと推定

<対策1～4 と 推定原因①～③：軸封部断面イメージ>

対策1：油飛散防止

- ・油飛散時のガード新設

対策2：軸の接触防止

- ・軸とカバーの隙間調整（コンマmm単位）

対策3：Oリング切断防止

- ・Oリング取付精度の向上
(取付治具の使用、接着剤の適切塗布)

対策4：油漏れ防止

- ・カバー合わせ面調整
- ・治具を用いたシール材
(液状ガスケット) 適切塗布

(写真B) →

(写真C) →

D/G 付属設備

← (写真A)

③新たに取付けた
油飛散ガード※の
隙間から漏れ発生

②漏れた油が軸の
回転時に発生する
風の流れて巻き上げ

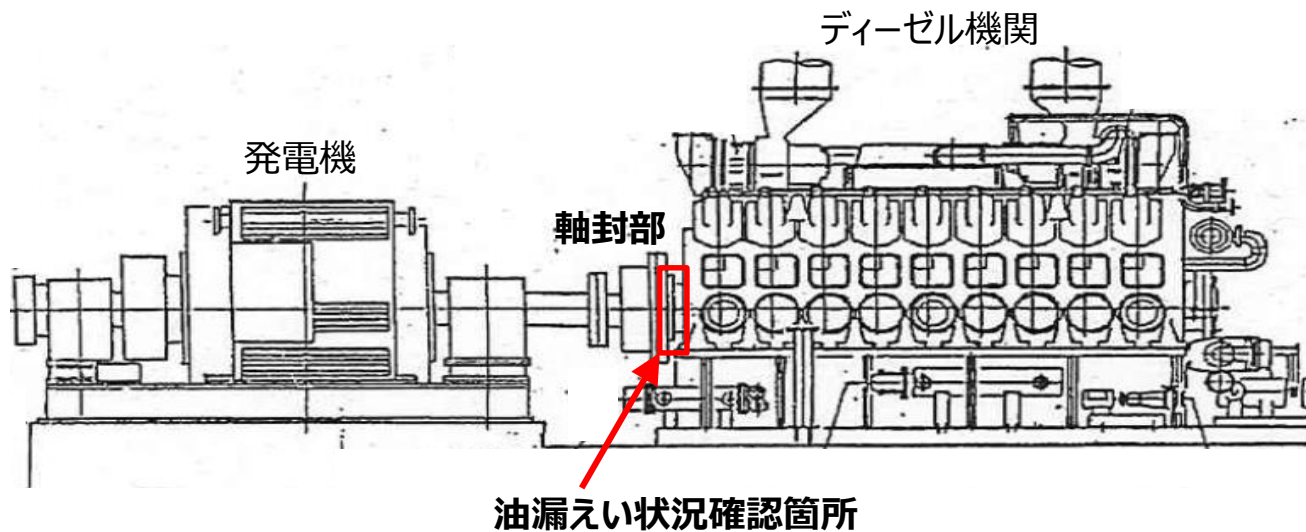
①カバーの合わせ面
からの油漏れ発生

(写真D)

油受け皿

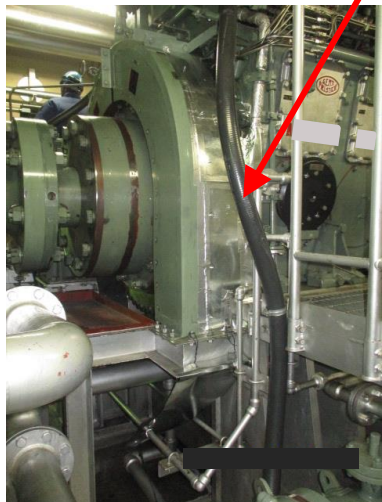
※ 油飛散ガードからの漏れ：巻き上げられた油がガードにあたり、自重で油受け皿に落ちるよう設計。ただしD/G設備構造上、ガードしきれない隙間は生じる

(参考) 6号機非常用ディーゼル発電機 (A) 油漏れ発生状況



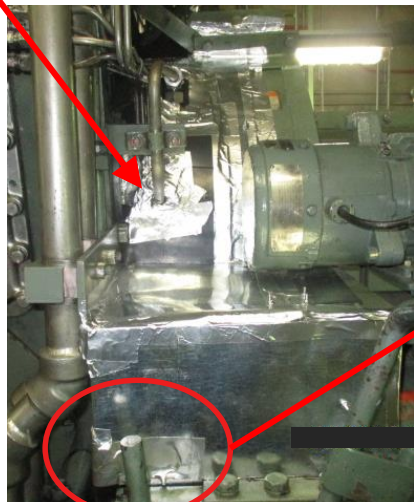
油飛散ガード設置

写真A



発電機側

写真B



機関側

機関側

発電機側

油漏えい状況

写真C



※設備の干渉により、ガードで密封ができない隙間から漏えい

写真D



発電機側

機関側

※軸封部下部より撮影
カバー合わせ面からのにじみが、
カバー下部にたまっもの